

6/3 (火)

場所：アオッサ 607 (福井市)

NPO 法人共存の森ネットワーク (東京都) 理事長

(里山里海湖研究所 研究アドバイザー) 澁澤 寿一 氏

講座名：里山里海湖の暮らしが、私たちに教えてくれること

●「村の暮らし」と「現代の暮らし」との比較から、今までと違う価値観を持った持続可能な社会を作り出す必要性についての講演。

秋田県などの事例の紹介から、里山を守ることは、人と自然、人と人、世代と世代を結びつける重要な働きであることを説明した。

参加者からは、「里山を守る深い意義が理解できた。講演会でここまで感動するとは思っていなかった。」といった感想が聞かれた。



6/14 (土)

場所：福井県海浜自然センター (若狭町)

里山里海湖研究所 研究員 石井 潤

講座名：自然観察指導員養成講座

●午前中は座学として植物採集を活用した体験学習の進め方について、午後は野外に出て、実際に植物採集を行うとともに、海からの距離によって植生がどのように変化しているかを調査した。

採集した植物を持ち帰り、参加者が実際に図鑑を用いて植物の同定を行うことで、植物の同定の手順や方法を体験した。

座学だけでなく、植物採集を実際に行うことにより、植物採集の方法およびその指導方法について深く学ぶことができ、参加者からは、「大変だったけれど、実際にいろいろ体験できて良かった。」という感想が聞かれた。



9/5 (金)

場所：アオッサ 607 (福井市)

モリエコロジー (株) (大阪府) 代表取締役 森 鐘一 氏

講座名：森里海湖連環について

●現在、海で生じている問題は、いろんな里地・里山からの問題が混在していることを、仏教の考えを交えて説明した。

また、森里海湖のつながりや、森里の影響を受ける海の生態系についても考察があった。

最後は、講座を通して、本県の里山里海湖の保全・再生について聴講者と一緒に議論した。

これまで調査して生きた海の状況などを、写真などを交えたわかりやすく説明により、受講者も、海で生じている問題の、根本原因は里地里山の問題であることを認識できた。



10/20 (月)

場所：アオッサ 607 (福井市)

NPO 法人山菜の里いび (岐阜県) 理事長 小寺 春樹 氏

講座名：里山の保全再生の現場から (過疎の村を薬草で地域おこし)

●限界集落における里山保全再生は里山の人間を守ることであるとし、ヨモギや伝統的な野菜等を用いた加工商品の開発や、地域住民や大学と連携した地域おこしの取組みを紹介した。

実際に作っている商品を見せ、具体的なアピールポイントや商品化までのエピソードの披露により、説得力のある講演となった。

受講者も、人も含めた地域の資源を結びつけていく活動が、里山再生活動において重要な要素であることを認識できた。

